

プログラムの特徴

本プログラムは、タイにおいて地域に根付いたプロジェクトへの参加を通じ、その地域の社会発展に貢献すると同時に、日本企業の更なる海外進出に向けて、現地の状況とニーズを把握することを目的としています。実務実習を行うだけでなく、タイ語やタイ文化に直接触れることで現地の文化・社会についての理解を深めます。また、プログラム期間中は受入れ先の宿舎に滞在しながら、現地の人々との交流を通じて、異文化理解・適応能力の向上を図ります。タイの山岳民族（アカ族等）の村に訪問が出来る可能性もあります。

※使用言語：基本的には日本語と英語ですが、簡単なタイ語・山岳民族の言語、ジェスチャーなどを交えて意思疎通を図ります。

プロジェクト例

- ◇ 山岳民族支援プロジェクトの手伝い
- ◇ 村のコミュニティーホール建設と修復
- ◇ 太陽電池設置、学校での手洗い場・トイレ建設など
- ◇ 学校もしくは村で日本語や日本文化の授業



参加基本条件

- ◇ 日常会話レベル程度の英語力のあること
- ◇ 派遣先の規則に基づいて働くことができること
- ◇ 異文化に興味があること
- ◇ 自立心と協調性があること



チェンライについて

ミャンマー、ラオスと国境を接するタイ最北の地・チェンライは、かつてタイ北部を統治したランナー王朝最初の都があった場所です。隣接するチェンマイなどと共に、現在も「ランナー文化」と称されるタイ北部独自の文化・伝統が色濃く残り、メコン川のほとりにあるチェンセーンには、ランナー王朝時代の遺跡群が、チェンライ市内には美しい寺院や文化施設が数多くあります。一方、自然豊かな山岳地帯には、さまざまな山岳少数民族や旧中国国民党軍の子孫などが暮らし、王室の別荘地があることでも知られています。

プログラムの詳細

参加費用：170,000 円(予定)

研修期間：2020 年 2 月 24 日(月)～3 月 8 日(日) 2 週間

研修費用に含まれるもの

- | | | | |
|--------------|----------------|-------------------|------|
| ・現地交通費 | ・派遣先/プロジェクトの決定 | ・現地空港送迎 | ・滞在費 |
| ・事前オリエンテーション | ・24 時間緊急連絡サービス | ・食費(一部、自己負担の必要あり) | |

※参加費用、費用に含まれるものについては、前回までの実績となり、変更となる場合もあります。

申込方法・お問い合わせ先

申込期日：～2019 年 11 月 15 日(金)

申込方法：まずはイントラックスまで申込希望の旨、ご連絡下さい。

お問合せ先：イントラックス TEL 0120-039-815 メール intrax@intraxjp.com

学内説明会 開催予定

日時：2019 年 10 月 17 日(木) 12:35～13:20 (予約不要)

場所：立教大学 池袋キャンパス 5402 教室

タイ・ボランティア 体験談

立教大学 山崎さん

【参加の動機を教えてください。】

もともと海外に対してかっこいいイメージを持っていたこともあり、海外に行きたい意欲がありました。大学では福祉を専攻していますが、授業を通して、国や地域によって環境が様々であること、社会の仕組みによって個人では解決出来ないことが存在していることを知りました。そこで、ただ単に華やかな場所で旅行を楽しむだけでいいのかと疑問を持つようになりました。そこから、発展途上国での海外ボランティアに興味を持ち、夏休みという長期休みに参加が出来る、この大学プログラム選択しました。また、ボランティアだからこそ出来る現地の方々とお話や参加者との出会い、協力する活動にも惹かれました。さらに、強くなりたい、自分を変えたい、視野を広げる良い機会にしたいと思ったことも理由のひとつです。



【具体的にどんな事をしましたか？】

村には整備されていない道があるので、山を削って道路を作ったり、竹の家作りをしたり、町作りに一から関わって、こうやって町は作られていくのかと全身で学ぶことが出来ました。汗をかく大変な作業でしたが、仲間同士で励ましあいながら絆を深め、楽しく出来ました。思っていた以上に綺麗に仕上がり、すがすがしい達成感を味わえました。タイでは、無国籍の子もいるので、海外に行けないこともあります。自分の暮らすコミュニティ以外の世界を知る機会がないのです。そこで、異文化に触れるきっかけを作るために私たちが小学校や幼稚園に行き、日本語を教えながら交流しました。幼稚園生は笑顔で迎えてくれてくっついて離れなかったり、とにかく可愛かったです。小学生は日本語で話そうと頑張って話しかけてくれました。学ぶ楽しさや異文化に少しでも興味を持ってくれたら嬉しいなと思います。

【現地での生活はどうでしたか？】

受入先の施設に滞在していました。ここにはタイのインターン生や日本の各地や海外からのボランティア生が集まるので、たくさんの出会いが詰まった場所でした。休日は新しくできた友人と、ワットファイプラーカンという白い大きな大仏の他にも、素敵な寺院や観光地を見学しました。ナイトマーケットや、ショッピングセンターでお買い物をしたり鍋パーティーをしたのも楽しかったです！

【この経験をどのように生かしたいですか？】

この経験を通してまず、当たり前な生活に幸せがたくさん転がっているのだと気づき、小さなことにも喜びを得られるようになりました。この環境を無駄にせず色々なことに挑戦していこうと思います。ここで出会う人たちは本当に優しく温かくてゆったりと過ごしていて故郷のようになりました。さらに、1番大きな存在であった仲間を得ることも出来ました。また、色々な人と出会うことで刺激を受けたり、自分を見つめ直す良い機会になったと感じています。私は人の笑顔を見るのが好きだと感じたので、将来は誰もが住みやすく互いに助け合いながら笑顔あふれる町づくりをしたいと考えています。

